



懸賞金
10万円感想文を募集します!!
マンガ 道、知るべ
続 長久保赤水の一生
<募集要項>

◆応募資格	年齢・職業・国籍・性別・住所など一切不問。
◆応募方法及び提出先	原稿用紙に感想文（800字以内）と氏名・生年月日・年齢・職業（学校名）・住所を明記してご送付ください。 郵送先 〒318-0103 茨城県高萩市大能341 長久保赤水顕彰会『マンガ 道、知るべ〜続長久保赤水の一生』感想文 係 （長久保赤水顕彰会会長 佐川春久）
◆応募締切	令和4年3月31日（木）消印有効
◆選考方法	長久保赤水顕彰会理事会メンバーの審査により、最優秀作品賞1点と優秀賞10点を決定。最優秀作品は、令和4年6月に発行が予定されている絵本『小わく星長久保』に掲載いたします。
◆表彰及び景品	最優秀作品には、賞金10万円を贈呈いたします。なお、最優秀作品賞受賞者には、長久保赤水顕彰事業のために3万円のご寄附をお願いいたします。その他の優秀賞10点には、記念品を贈呈いたします。授賞式は、令和4年11月3日（文化の日）に、高萩市内において開催する予定です。授賞式に参加できない場合は、代理の方でも結構です。
◆応募の際、次の事項に留意してください。	作品は、応募者が書いた未発表の感想文に限ります。最優秀作品の著作権は、長久保赤水顕彰会に帰属します。採用作品は、一部修正を行う場合がありますので、あらかじめご承知ください。一人何作品応募されても歓迎いたします。応募作品は、返却いたしません。

いばらき春秋
 2021.11.16
 夜の帳が下りた高萩市石滝のさくら宇
 宙公園。南の空に木
 星と土星が並んで輝
 き始めると、すばる
 天文同好会の会員た
 ちが三々五々集まって
 北部を中心に活動し、結成30周
 年の定例観望会が今月ようやく
 再開し、川口和彦さん(88)は
 「仲間と和気あいあい星空を見
 上げるのは楽しい。日常が戻っ
 てきた」と顔をほころばせた▼
 坂本九さんの「見上げてごらん
 夜の星を」がヒットしたのは高
 度経済成長期の1963年。地
 方から集団就職で上京した若者
 たちがこの名曲に励まされたこ
 ろが、歌の力だけではい
 星の瞬きは「1/fゆらぎ」と
 呼ばれ、波の音や小川のせせら
 ぎと同様、人に心地よさや安ら
 ぎを感じさせてくれるそうだ。
 瞬きの原因は地球の気象による
 光の屈折で、木枯らしが吹き空
 気が澄んだ冬は一段と星が瞬く
 ▼19日夕には98%が欠ける部分
 月食が県内でも観測でき、欠け
 始めた月が赤みを帯びて東の地
 平線から昇る。同好会はJR高
 萩駅前市民向けの観望会を予
 定する▼この時季、オリオン座
 など冬を代表する星座が東の空
 を駆け上がり、星の瞬きをしば
 し眺めていると、ふさいだ気持
 ちも晴れるに違いない。(山)

R3. 11月16日 茨城新聞

G空間EXPO2021 ~地理空間情報科学で未来をつくる~
リアル開催は12月7日から、長久保赤水顕彰会の紹介動画は
12月6日公開から12月26日まで



G空間EXPO2021
~地理空間情報科学で未来をつくる~
長久保赤水顕彰会は【講演シンポジウム】
内で地理教育に活用いただける動画をご案内
内しています。

長久保赤水顕彰会は昨年に続き2回目の参加となりますが、今回は【講演シンポジウム】内で高萩市製作の映画を含む動画3点を地理教育への活用へ、また、拡大床敷「赤水図」の教材活用をご提案しております。開催期間や内容は写真を拡大してご覧いただくか、以下リンク先より直接ご覧ください。

G空間 EXPO2021
<https://www.g-expo.jp/index.html>

◆ご覧いただくには◆

トップページ、黄色の表示より下にオンラインコンテンツ3つの項目が表示されておりますので、長久保赤水顕彰会による動画のご案内は、【講演・シンポジウム】内（地図みらいコンソーシアム）を開き、「コンテンツはこちら」からご覧ください。

- テーマ1「地図と地理空間情報でとらえる国土」**
- ◇ 1-5 プログラム名~長久保赤水『赤水図』の新たな地理教育への活用~
【12月6日公開~12月26日まで】
 高萩市・長久保赤水顕彰会（日本地図学会…企画協力）
- ①「その先を往け！日本地図の先駆者 長久保赤水」(約50分)
 - ②「~地図は何を語る~長久保赤水が可視化した日本」(約19分)
 - ③「長久保赤水 国の重要文化財指定記念・特別展の紹介と解説」(約16分)

赤水の功績、伝える

高萩市 動画サイトで公開

高萩市は、同市出身の江戸時代の学者・長久保赤水（1717～1801年）の生涯と功績を伝えるために制作した映像作品を、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。



高萩市が動画投稿サイト「ユーチューブ」に公開した、長久保赤水の映像作品のワンシーン。中央が和泉元彌さん演じる赤水

映像のタイトルは「その先を往け！日本地図の先駆者 長久保赤水」。赤水の功績を図る目的で市が製作し、5月に封切りした。時間は約53分。ユーチューブの市公式チャンネルから鑑賞できる。

赤水は幼くして両親を亡くし、継母や、地元医師が

開く私塾の仲間を支えられ学問に励む。多くの資料や旅人の話などを編集して「改正日本輿地路程全図」を完成。農民出身ながら水戸藩主の侍講に登用され、年貢取り立ての改善を求めた書を藩主に提出するといった半生を描く。

長久保赤水顕彰会の佐川春久会長が監修し、本県に縁のある作品を手掛けてきた松村克弥さんが監督を務めた。市生涯学習課は「赤水の学問に対する思いや生涯、その功績を、驚いたばかり」としている。

市は観光PRの映像も「歴史」「レジャー」「特産品」の3編に分けて製作し、ユーチューブで同時公開した。

【高萩市製作 映画】 その先を往け！ 日本地図の先駆者 長久保赤水

狂言師 和泉元彌さんが長久保赤水役の主演とナビゲーターをつとめた映画は令和3年5月に公開されました。

赤水は農民出身でありながら第六代水戸藩主治保の侍講（講師）をつとめました。地理学・天文学・農政学など多岐にわたる分野を研究した長久保赤水。江戸時代の代表的日本地図『改正日本輿地路程全図』を製作する経緯や幼少時代から学び続けた赤水の生涯を映像化しました。

令和2年9月30日、長久保赤水の関係資料693点が国の重要文化財に指定されたことを機に、今後ますます長久保赤水について研究されてゆくことでしょう。

YouTube 53分06秒
<https://youtu.be/w9d7mvNsXa4>



知られざる赤水の天文学①

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

当会では10月20日に、川口和彦氏著『長久保赤水の天文学』を出版した。高萩市赤浜の農家出身の長久保赤水（1717～1801年）は、日本地図『改正日本輿地路程全図』（通称・『赤水図』）の製作者として注目されるようになってきたが、天文学者としての業績はほとんど知られていない。

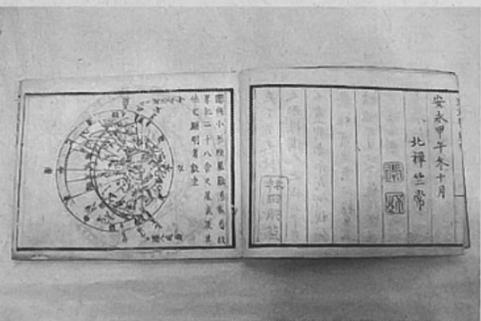
この『長久保赤水の天文学』の帯原稿を書いた自然

日本初の星座早見盤

科学研究機構国立天文台の渡部潤一氏は「長久保赤水の天文学はこれまで大きな功績としては、それほど認識されてこなかった。その赤水の天文学に関する著作の代表は、『天象管闡鈔』であり、赤水が地図作

りの過程で学んだ天文学の知識を広く世に知らしめるのが為の工夫が随所に見られる」とした。さらに「なによりも緻密に込まれている回転円盤星座盤の仕掛けはいわば日本で初めての星座早見盤といっても過言ではないだろう。

長久保赤水は、もともと出自が農民だったためあくまで庶民が使いやすいようにポケット版として、この回転円盤星座盤を考案したという著者川口氏の見解は誰しもが納得できるだろう。」と推薦いただいた。また、同書40頁では天文学者、井本進氏の言葉を紹介。「安永三年『天象管闡鈔』と題する小型の冊子（横本）が出たが此の中に星図が回転式に見られる様な仕組みに載せられている。（中略）これは水戸の長久保赤水の作である。しかし回転式星図は之を以て嚆矢（こし）とす（中略）」



井本はさらに「澁川春海について新しき試みを企てたのは長久保赤水であった。彼の回転式星図こそは現代においても実用される巧妙なメカニズムなのであって、彼の地図作成上の著しき業績とともに讃えられるべきものである。」とある。ついに天文学者、長久保赤水の偉業が現代によみ

茨城県指定文化財の長久保赤水著『天象管闡鈔』高萩市歴史民俗資料館所蔵（長久保赤水顕彰会寄贈）

がえったのだ。

巻末には特別付録として〈原寸大赤水式星座早見盤を作ってみよう。今日からきみも江戸時代の天文学者になれる！〉。その作り方と使い方も掲載した。ぜひ自分の携帯用星座早見盤を作り、一度、夜空を見上げてほしい。赤水もそう願ってほしい。赤水もそう願ってほしい。なお、長久保赤水顕彰会のHPでも原寸大赤水式星座早見盤を紹介し、一人でも多くの方に江戸時代に考案された道具を実体験してほしいと願っている。（今回は11日掲載）

知られざる赤水の天文学②

寄稿

長久保赤水顕彰会長

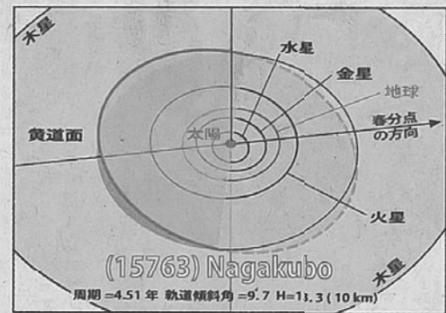
佐川 春久

長久保赤水の生誕300年(2017年)を前に、太陽の周りを公転している小惑星に長久保赤水の名前が付けられた。この小惑星「Nagakubo」は、直径約10^{km}(参考・「はやぶさ2」探査で有名な小惑星「リュウグウ」は直径約900^{km})。火星と木星の間であり、ややつぶれた楕円軌道で太陽の周りを約4年半かけて回っている。16年4月22日、国際天文学連

生誕300年、小惑星に名

合(本部・パリ)のホームページに小惑星「Nagakubo」の誕生が掲載。これにより国際天文学連合から「星の学術名」として認められ、「小惑星名辞典」に長久保赤水の名前が収録されることとなった。(マンガ長久保赤水の一生160^頁参照)

日立市天気相談所長)に連絡を取り、その富岡先生の紹介で札幌市の渡辺和郎先生へとつながった。渡辺先生は、数々の小惑星を発見されている日本でも有名な方で、全国誌の『天文ガイド』等にも連載コーナーを持っていて、先生は「これまででは、個人の名を小惑



太陽系における小惑星「Nagakubo」の楕円軌道図。天文学家・渡辺和郎氏(札幌市)提供

星に付けていたが、これからは特に著名人で、その顕彰活動などに広がりのある人の名を付けたい」とのお考えだった。すぐに長久保赤水が江戸時代に著した「天象管闡鈔」など、赤水が関係する

いくつかの天文資料を川口氏経由で送ったところ、渡辺先生から「日本語と英語で長久保赤水の業績を100字以内で送ってほしい」と連絡があった。まず、日本語での原稿案を川口氏が作成。それを私から、当時、東京大学大学院教授だった馬場章先生の下に送り、日本語と英語で原稿を書いていただいた。

渡辺先生からは、「すぐに、国際天文学連合に申請したので、数カ月お待ちください」との連絡があり、その8カ月後、念願の小惑星「Nagakubo」が誕生した。(『長久保赤水の天文学』十一・140^頁参照) (次回は18日掲載)

「学び」多角的に考察 千葉・佐倉 赤水の地図も展示



長久保赤水の「改正日本輿地図」(右)ほかイギリス・イムレイ社日本南部沿海図を並べて対比

幕末以降の近代日本で人々は何を学び、なぜ学んできたか。対外関係史や文化史など、さまざまな側面から考察した「学びの歴史像」わたりあう近代」展が、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開かれている。12月12日まで。同展は6章で構成。第1章「世界と日本の認識をめぐる(学び)」では、長久保赤水や伊能忠敬の日本地図とイギリスのイムレイ社日本南部沿海図などを対比。影響し合っている様子を浮き彫りにする。第2章では、旧幕臣が維新後にも政治・行政・経済分野で活躍した足跡を示す史料を並べた。第3章では、明治初期に盛んに開かれた内国勸業博

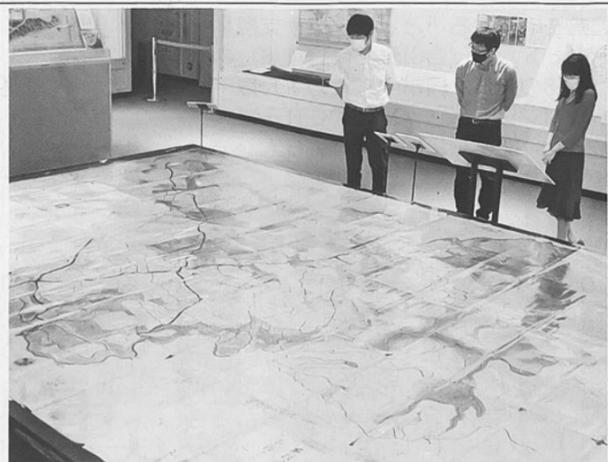
覧会を通して、「開化」が「富国」へ向かう足取りを追う。第4～6章では、ハンセン病患者が差別に伴い隔離される中、病と隣り合わせながらも生きる姿勢を見せた文化活動の一端を紹介。北海道のアイヌや沖繩の人々が、日本の近代教育制度について残した史料も集めた。同館は「学び」としても狭義の学校教育史ではない」とした上で「中央と周縁、強者と弱者など緊張感をほらんだわたりあいを伴いつつ、教育や学知を通して『国民』が生み出されていく過程を明らかにした」と話している。月曜休館。一般1000円、大学生500円。

古地図で知る暮らし

県立歴史館 測量技術の変遷紹介

古地図を通して、人々の暮らしや測量技術の歴史を振り返る企画展「絵図・地図・アーカイブ」描かれた茨城の都市と村」が、水戸市緑町の県立歴史館で開かれている。江戸時代の国絵図から現代の鳥瞰動画まで、本県の姿を正確に捉え、表現しようとする手法の変遷が楽しめる。

会場に並ぶのは、同館所蔵の測量技術が盛んな蔵を中心とした66点。間宮林蔵や長久保赤水、飯塚伊賀七といった地理学者や測された明治以降の精密な地



詳細な情報が書き込まれた「常州茨城郡成沢村一郷絵図」=水戸市緑町

図まで、6章に分けて紹介されている。初公開となる縦3・5^m、横5・5^mの「常州茨城郡成沢村一郷絵図」は現在の水戸市内の様子が描かれ、迫力たっぷり。絵図の中に、約100年にわたる土地の用途や所有者の変遷、建築物などが書き込まれている。長久保赤水関連資料からはマット型の「改正日本輿地路程全図」が床に敷かれ、上に乗って細部を眺めることができる。同館行政資料課長の長谷川拓也さんは「地図は場所を示す以外にも、当時の暮らしを知る手掛かりになる。最新の測量技術と合わせて楽しんでほしい」と話している。

会期は9月5日まで。午前9時30分から午後5時。月曜休館。料金は一般350円、大学生180円、満70歳以上170円、高校生以下無料。問い合わせは同館(029)(225)(4425)。(滝山亜紀)

知られざる赤水の天文学④

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

「長久保赤水の天文学」の校正作業中、川口和彦氏に「紅毛眼鏡ニテ見ル日月図」の話をした。すでに「マンガ長久保赤水の一生」167頁で紹介したが、川口氏は見逃していた。このため、付論として追加で書いていただいた。内容の一部を紹介する。

この図は、「紅毛眼鏡」(望遠鏡)でのぞいた太陽と月の表面を描いたものである。太陽と月の横写図に、それぞれ「阿蘭陀 日」「阿蘭陀 月」と題されている。

「日」の方では、太陽本体の周りに九つのキノコのよなプロミネンス(太陽のコロナの中に見える紅炎)らしきものが描かれている。本体にはまるで花畑のようににぎやかな模様がある。「月」の図の下の方に

視野広く思考は柔軟

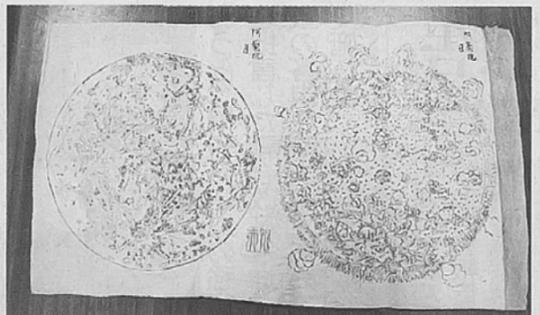
描かれているくぼみは、最大のクレーター「ティコ」、中段辺りの左側は「コペルニクス」である。

この図とほぼ同じものが司馬江漢の銅版画にある。1796年刊「日本創製銅版天球全圖」の中にある「太陽真形図」「月輪真形図」の2枚である。江漢は、1788年にひと月あまり

長崎旅行をしている。その時に平戸藩の松浦静山とも交流し、多くの蘭書を閲覧する機会を得たという。これら蘭書の中に、ドイツ出身のイエズス会司祭、アタナシウス・キルヒャー著「ムンドウス・スプテラネウ」(1664年刊 邦訳名「地底世界」)が含まれていたことが想像される。

司馬江漢の太陽の図は、キルヒャーが望遠鏡で観察して描いたものを写したことがほぼ確かである。

江漢は松浦静山から閲覧させてもらい、これを描き写していたと考えられる。また木村兼葎堂が同書を所有していたことから、これを閲覧したとの説もある。では長久保赤水はどこで



この図を描き写したのだろう。司馬江漢の2図を目にしたとしても、赤水はすでに80歳を越えた老域に達している。1774年、赤水58歳、脂が乗った時期に「天象管闕鈔」を出版した。この時、木村兼葎堂に初めて会っている。赤水は西洋書籍を、大変な驚きを持ってそのまま複写したものとと思われる。ただ、水戸学の大

重要文化財「文書・記録類NO・四一・長久保赤水が描いた紅毛眼鏡ニテ見ル日月図」高萩市歴史民俗資料館所蔵(長久保赤水寄贈)

家である赤水が、蘭書に目を通していた可能性に、赤水という人の柔軟な思想スタイルの一面をうかがうことができる。水戸学自体、幕末の志士たちに大きな影響を与えるなど、日本近代史に無視できない大きな足跡を残しているが、長久保赤水の視野の広さと思考の柔軟さは、それらをはるかに凌駕する巨視的な学問を目標としていたのではないかとさえ思える。小さな型に はめてしまったのは、赤水の実像は見えてこない。「長久保赤水の天文学」123頁参照 (おわり)

知られざる赤水の天文学③

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

国の重要文化財に指定された「天経或問 天」には、長久保赤水が猛勉強をしたその上欄に、朱書で赤道や黄道(太陽の通り道)、経度即東西とあり、墨書で緯度とある2図が描かれ、また、赤水の朱書で「右二図、次ノ南北ノ標柱也、後へ移シ見ベシ」と書かれている。この本には、星が1等から6等まで描かれ、天体の動きや木星・土星など

が描かれている。よく見ると驚くことに、土星には輪があるように描かれている。この「天象管闕鈔」には1791年に長久保赤水が大坂で著した和文体の初級星座早見書が付いている。「天象管闕鈔」の序文

書物に勉学の跡残る

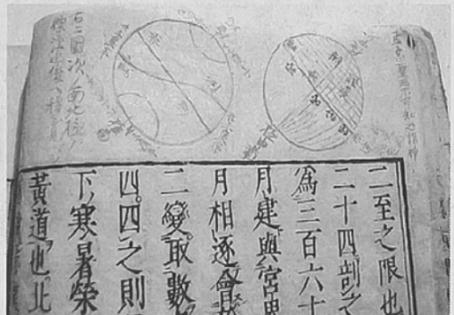
は京都五山の第2、相国寺住職、北禅竺常(尊称・大2年)が書いた。諱は顕常。大典は号。北禅竺常は赤水の師である鈴木玄淳の「和漢年代歌」の序も書いた。

この「天象管闕鈔」には

「天文学は学問を始めたばかりの者が、何を差し置いて、まず最優先に学ばなければならぬ」というものではない。とはいももの書経にあるように、中星の南中を測定する事によって、季節の移ろいを正確に知る事ができるといふ事や、春秋左氏伝においては、周の曆に基づく事象記載が

記事構成の基本になってくる事など、天文知識がないと、聖人たちが制定した礼制の意味するところを知ることができない。初学者といえども、そのように意識しないといけない」とある。

農民出身の赤水は、四季



折々の天体観測により、すでに、農作業の種まき時期などを知っていたと思われ。赤水は儒学を30代後半で大成した後に、中国の天文・地理の学問を学んでいく。長久保赤水顕彰会が高萩市歴史民俗資料館に寄贈した漢書、「春秋左氏伝」や「書経卷之二」「漢書評林之九十六」などの中には、中国の歴史や地図原

重要文化財「典籍類NO・二六九「天経或問 天」。高萩市歴史民俗資料館所蔵資料(長久保赤水顕彰会寄贈)

稿の多くの書き込みが見られる。長久保赤水の儒学者としての勉学の跡が残されている。これら数多くの漢籍による知識がその後の地図作成の大きな基礎となっている。また、後年、水戸6代藩主、徳川治保公の侍講として抜擢される要因となる数多くの古代中国の聖王学や天文学の知識を、すでにこの頃から育んでいたのだ。天文学は儒学を学ぶ上での必須事項でもあったことが分かる。「長久保赤水の天文学」116頁参照 (今回は25日掲載)